



一年の計

新年明けまして おめでとうございます

「一年の計は元旦にあり」といいます。

わたしは、一家の主婦です。主婦というものは、毎日毎日子育て・掃除洗濯・ご飯ごしらえなど、いわゆる家事雑用に追いまくられて、とても一日の計、一年の計などあつたもんではありません。

その日その日の目先の仕事を、ただただこなすのが精一杯です。

平成八年も、そのようの暮らしてきて、

そのようにおわりました。

ところが年末、久しぶりに娘が里帰りしてきてくれて、「おかあさん、今年はわたしにまかせて、ゆっくりやすみな」といつて、年末の掃除からなにから、なにもかもテキパキやってくれます。

むすめも子育てが終わったのでしょうか。考えてみるとわたしはもう六十五になるのです。

それで大晦日の朝は、7時ごろ起き出して、お仏壇でおつとめしてから、新聞をひらきました。

「やれやれ、今年一年、いつもの年以上に、なんやあわただしかったナ!」「来年はどうなるやろ?」

「どないくらしたらえんやろ」

今まであんまり考えてみもしなかったことをポンヤリ考えて、新聞ながめていました

「ああ、これこれ」と思いに当たる言葉にありました。

その言葉は、実は先程、おつとめさんをしながら、わたしのむねに沸いて来た思いを、キッチリ言葉にしてくれたような文章でした。

しばらく前進をやめて、うしろをふりかえれば、今まで見えなかつたものがみえてくる。」

日本の国は、とにかく前進、成長。前ばかりみて進んで来た。そのあげくが平成8年に爆発した。

わたしも、そうだ。

娘が帰つてくれて、朝、久々にゆっくりお仏壇にお参りさせていただいた。

如來様がおっしゃつてくださった。

「ご苦労だつたな。でも六十五になんまだよ。一度バックミラー見ようじやないか。後ろを振り返つてごらん。今まで見えなかつた大事なものが、キットみえてくるよ

お念佛の中から、わたしそんなことばを聞いたのです。

それでわたし、このことばを「一年の計」にきめました。

人はバックミラーを見て進む。
しばらく前進をやめて 後ろをふりかえれば

見えなかつたことが 見えて来る。
(一老主婦から)



奥小谷
八谷垣 さよ様

初参式



行こよう
その駒
駆りて
路次はるか
曉に
爪立日
門出を祝して

上の句の句頭に「あつひる」といれました。

下の句に「こうよう」「みなみ」「そのこ」といれました。

【 日の出に蹄(ひづめ)の音を響かせ勢い立つ若駒。】

人生の旅路は遙かではあるが、臆さずたじろがず 荒海波を その若駒で乗りきり駆(かけ)りきってほしい。

二月のこよみ

二日 勝林寺仏事給△云
四日 近畿同朋運動推進協議会
七日 阪神報恩講

教区連研履修者研修会
九日 同じ
十日 藤山克巳氏宅法事
十一日 仏婦説叶説具△云
十六日 岸下豊氏宅法事
十六夜会定例法座

二二日 谷垣なつ子氏宅忌明法事
二三日 教区門徒推進員研修会(姫路)
二十四日 教区布教団研修会
二六日 みのりを聞く会
二七日 教区ビハーラ研修会

一月三日 片間の南 浩陽くんが父敦浩、母その子さんと祖母加寿子様に伴われて初参式におまいりました。肥立ちよい元気な男児でした。

一月三日、片間の南 浩陽くんが父敦浩、母その子さんと祖母加寿子様に伴われて初参式におまいりました。肥立ちよい元気な男児でした。

代議員△云報出
欠席ほとんどなく「勝林寺寺報(臨時号)」(二十日金戸配布)の議案書に沿つて審議がすすめられました。

行事経過報告は報告通り承認されました。

経常費会計並びに基本金会計の決算については、布施会計からの補填の問題、他出門徒からの賦課金未納の問題等若干の質疑答弁がありましたが、これも報告通り承認されました。

【平成九年度のとりくみ】のうち 二回の住職・坊守の年回法要、研修旅行、納骨参拝、または平成十年の蓮如上人遠忌団体参拝については、今後仏社・仏婦・総代会の適宜な運営に委ねようということになりました。

ただ、蓮如・遠忌・繼職法要と、それに至る準備事業(山門・鐘楼工事)については、かなりな意見が出されました。1、工事費の見積もりは2、基金積立は何ヵ年 3、継職の年次は4、工事請負業者の選定などでした。結果、不景気窮屈のときもあるので、今後見積もり等緊縮検討して、しかも有意義な法要行事が勤まるよう申し合わせて終わりました。、



出遇へ（であ）いたい

本願寺新報の“言葉の花束”という欄に、今回、外松太恵子先生が書いて下さった文章を、紹介させていただきます。

☆ ☆ ☆

妻ひょっとして、これは私のために生まれててくれた女（ひと）ではなかつたかあんまり身近かにいてくれるので気づかずにきたのだが……

『東井義雄詩集』

「妻」と題したこの詩は、東井先生が、“恐らくこれが私の最後の本になるだろう”といわれた詩集の、数多い詩の中の一節です。妻も夫も、いたずらっ子も先生も、祖父も祖母も、ともだちも……看護婦さんも……誰もかもが、
「ひょっとして、私のために生まれて來てくれた人ではなかつたか……」

ことし出遇うすべての人、すべての出会いに、「ひょっとして私のために……」と気づく一年であります

私が人間になるために、これほど身近かに、大いなる、尊い無限のみ光が届けられている。
しみじみと、もう一度、私のためのこの詩を口ずさんでみよう。

ひょっとして、これは私のために

生まれてくれた女（ひと）ではなかつたかあんまり身近かにいてくれるので気づかずにきたのだが……



(仏婦は総会を毎年七月九日にひらきますので、地区代表からなるこの評議員会で実際的な決議をして総会の承認を得ます)

一月十一日（祝日）午前9時半より

おつとめ
ご法話

平成八年度行事経過報告
平成八年度会計決算報告
平成九年度のとりくみ

その他

年間会費900円とダーナー献金100
、計一千円を集金納入ください。

一月二十六日別掲のように代議員会が開かれ今年度内の重要な行事や会計のおまかな方向が決議されました。その決議されたところを、より具体的に立案企画し運営実施していくのは、仏壯と仏婦の役目です。例年、代議員会の後に、仏壯は総会を、仏婦は評議員会を開き、また仏壯・仏婦・総代会の合同役員会で組織間の協議協調をとりながら勝林寺を動かしてまいりました。

「動いている寺」という評価を得ているのは、とくに仏壯・仏婦を軸にした有機的な活動の成果です。その仏壯総会・仏婦評議員会がひらくこれまでの活動の成績です。

こぞって参考ご協議ください。

勝林寺仏教青年会

2月2日午後1時
議題

平成八年度行事経過報告

平成九年度会計決算報告
役員改選

管内会員の年間会費一千円を納入ください。
その他

勝林寺仏教婦人会

評議員会

(仏婦は総会を毎年七月九日にひらきますので、地区代表からなるこの評議員会で実際的な決議をして総会の承認を得ます)

ありません。
りためだったので、マ、これでいこうって、新聞に載ってた人様の詩を借りてきました。
この詩、人様の詩だけど、いまのわたしの気持ちとピッタシなんです。
彼女のさしだした紙片にはこんな詩が書かれていました。

書かれていました。
書かれていました。

ふとした瞬間にわたしが生きてきたこの二十年間の世界はすべてあなたから教わったものでできています。おかあちゃんにこの詩をみせて、おかあちゃんと二人抱き合って泣いたんです。ほんとうです。

そうしてから、そのあと一人で寝床でそつと、お祝いにもらった『歎異鈔』を開いたんです。

なんとなくわかつたんです。第一章。弥陀の誓願不思議にたすけられました。おかあちゃんと二人抱き合って泣いたんです。

佛もうさんと思いつつこちらのおこると生き、即、その瞬間に、攝取不捨のおすべいのなか



成人式のごあいさ

「成人式のお祝いいただきて、ほんとうに有り難うございました。」

式の二日後、見違えるように大人っぽくなつたA子さんが挨拶に来てくれました。

玄関さきで、ほんの数分立ち話しただけでしたが、わたし彼女の初々しさに感動してしまいました。

彼女が申します。

「母がいうのです。成人式を迎えた今のがいの気持ち。それをありのまま言ってご挨拶するんですよ。それから、お祝いにいえたらなおいいんだけどねって。それから、お祝いにいえたらなおいいんだけどねって。でもわたし、そんなことができるわけが

この詩と同じ。わたしも同じ。と思いました。ふとした瞬間に世界はすべてあなたから教わったものでできています。わたしが生きてきたこの二十年間の世界はすべてあなたから教わったものでできています。わたしの気持ちは、わたしのまま言つてご挨拶するんですよ。

ピヨコンとあたまをさげて、颯爽と帰つていきました。

